

## 【実践報告】

# 学校栄養教育実習Ⅱの報告

広島文教女子大学人間科学部

人間栄養学科 講師 塩田良子

## 1 はじめに

栄養教諭一種免許状の取得を希望する教職課程履修学生を対象とした教育実習は、授業科目「学校栄養教育実習Ⅱ」に含まれる。本実習は栄養教諭としての修得すべき知識・技術に関する内容が中心となる小学校等での教育の現場で行うものであり、その目的は、栄養教諭としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、教育に関する資質と栄養に関する専門性を育成することである。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学習 (学内)	4月～5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。</li><li>・実習校への事前訪問により、指導教諭等の指導担当者から、担当となる学級の児童・生徒の実態や、食に関する指導の全体計画、実習の事前課題を確認する。</li><li>・実習校より出された課題について、模擬授業や給食指導、展示物の作成等を行う。作成物についてお互いに評価し合い、よりよい授業・教材になるよう工夫を重ねる。</li></ul>
本実習 5日間 (学外)	6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導教諭等からの学校・学級経営の説明、②児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習、③児童及び生徒への教科・特別活動における指導の実習、④食に関する指導の連携・調整の実習が挙げられる。</li><li>・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、栄養教諭の役割・業務等について理解を深める。</li></ul>
事後学習 (学内)	6月～7月 9月 報告会は 9/21に実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・各自の実習を振り返り、記録をまとめる。</li><li>・各自の実習内容についての報告会を実施する。報告会では、与えられた課題の取り組みを通して学んだことや研究授業の紹介等について発表する。</li></ul>

## 3 活動の概要

(1) 研究授業（学級活動）の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

テーマ	対象	ねらい
すききらいしないでたべよう	1年生	色々な食べ物があることを給食を通して学び、好き嫌いしないで何でも食べようとする意欲を持つ。
はし名人になろう！	2年生	自分のこれまでの箸の使い方を振り返り、正しく箸を持つことや使うことの重要性を知り、実践しようとする意欲をもつ。

苦手な食べ物を好きになろう	2年生	苦手な食べ物に興味を持ち、今後自分自身が苦手な食べ物をどのようにすると食べることができるのか考え、実行でしようとする意欲を持つ。
赤・黄・緑の3色を揃えて食べよう	3年生	食べ物の3つの働きを知り、赤・黄・緑の3色を揃えて食べようとする意欲をもつ。
バイキング料理をバランス良く取ろう！	5年生	主食・汁物・主菜・副菜・その他の5つをそろえ、バランスに気をつけた食事が大切であることを理解し、野外活動で実践しようとする意欲を育てる。

## (2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・食育授業は他教科と比べて授業数が少なく、栄養教諭として児童と関わる時間も限られている。その中で実際に児童と関わり現状を把握し、効果的に授業に取り入れることで、有意義なものにすることができる。
- ・授業で食器具や食材等を児童が用いる場合は、あらかじめ立てた順序を踏んで指示をすることでスムーズに授業が進む。指示とは異なる行動をとる児童もいることを想定して、貸出物の紛失や児童の事故に決して繋がらないように配布から回収まで責任を持って管理することが大切であると感じた。
- ・ゲーム等の実践的な活動を取り入れることはより良い授業に繋がる場合もあるが、各学級の現状や授業の理解度によっては学習としての役割を果たせないこともある。そのため、授業の進捗状況から活動実施の判断をし、本来の授業の目的から逸れないようにすると良い。
- ・伝えたいことは沢山あるけれど欲張らず、ねらいは1つに絞ることが大切である。
- ・指導案について〔まとめ〕は〔めあて〕に対しての答えになることを意識して、〔めあて〕〔まとめ〕を設定する。
- ・教科書でてくる言葉を使って授業をすることで児童の理解が深まり、また食に関する授業と教科が関連付けることができる。
- ・児童の発言は様々であるため、落ち着いてしっかり聞き、返答することが重要である。
- ・TT形式の場合、授業について共通理解をすることが必須であり、打ち合わせの際は、授業の目的・ねらいを明確にして充実を図ることが重要であると感じた。

## 4 成果と課題

食に関する指導を行う上で、まず「実態把握」、「児童と一緒に授業を組み立てる」、「給食を教材とする」ことが重要であり、どの実習生もその重要性を実感し、児童にしっかり向き合うということが経験できたようである。また、教員間連携を図るためにも、栄養教諭としてどのようなアプローチ、準備をしていかなければならないのかも学修できたようであった。修得していた知識のより深い理解と実践力は、学内の授業では伝えきれない部分が大いと感じるが、充実した現場実習となるべく、学内では基本的知識と学修意欲をきちんと備えさせることが必要である。

報告会では、自身の学修の総括、後輩たちへの伝達が簡潔にまとめられ、学ぶ姿勢だけではなく、得たものを次につなげる姿勢が見受けられた。学んだことを自身の技として定着させられるよう、事後のまとめにも力を注いでいくことが重要である。